

## 展覧会に向けた作品制作

神崎継春

2020年はコロナ禍ですべての文化・芸術分野の活動が思うようにできなかった。だが、文化・芸術活動は止めることはできない。一度止めてしまうと再開は非常に難しくなる。

コロナ禍の中、公募展も軒並み中止、延期となり、どのように作品発表をしようか考えた。今までは完成した作品の展示の形で発表してきた。今回は作品がもっているストーリーも知りたいという世の中の時代性も考え、制作過程も公開し、作品についての知識理解を深めてもらえればと思う。

幸いにも、2021年の主に発表の場としている日本伝統工芸展、日本伝統工芸近畿展は開催であり、近畿展に関しては今回本事業で制作した作品で入選することができた。

コロナ禍が収まった際には、皆が何も気にせずに芸術に触れあえる環境に早く戻ることを切に願います。

## 信楽壺の制作過程



黄瀬土と呼ばれる土。この土は最高の粘土と言われており、手掘りにて産出される。

この土を天日干しし、粉碎して不純物や大きな石を除去し、水を加えて粘土を作る。



粘土を積み上げて高さを出し、それをロクロで伸ばしていく。



最後に口を仕上げる。口づくりで作品のイメージが変わる。



作品を乾燥後、窯の中に、火の流れを考えながら詰めていく。

今回は今までと違う詰め方を試験した。



焼成時。燃料の赤松で4日間、1250℃まで交代で窯を焚く。



焼成終了後、窯出しを待つ作品

燃料の赤松の灰が釉薬になり、信楽焼独特の景色になっている。



窯出し。全体の焼き上がりが楽しみな瞬間。

作品集



信楽壺



信楽壺



信楽花器



信楽丸花瓶